

# 第一次合併協議案 ダイジェスト版

繊維学会

2024年12月

## はじめに

会員の皆様には、日頃より繊維学会の運営と活動におきまして、種々ご高配とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、(一社) 繊維学会、(一社) 日本繊維機械学会、(一社) 日本繊維製品消費科学会との間の三学会統合に関しまして、当初の理事会案は2022年9月3日の臨時総会において否決となりました。その後、前期理事会におきまして、アンケートを含め否決に至った経緯やその後の課題状況等を精査し、三学会統合には検討すべき課題があるものの繊維学会の将来のあるべき姿を実現しうる重要な方策の一つであるとの認識に至り、統合に向けての検討を再開することとなりました。これを受けて、三学会合併に関する協議会（以降、協議会）を立上げ、本年4月よりWGにて検討を重ねてまいりました。これまでの経緯につきましては、2023年12月会長メッセージ、学会HP「繊維系三学会の合併の検討について」ページも合わせて参照いただければ幸いです。

このたび、協議会として各WG答申をもとに第一次合併協議案をとりまとめました。本案は、合併した場合の新学会のあり方について、メリット・デメリットを含めて各学会で議論するためのたたき台と位置付けています。よって、繊維学会の理事会として、承認した案ではございません。今後、これをもとに、繊維学会として、問題点やさらに検討すべき課題などを議論し、新学会としての方向性をより良いものにしていくための検討を進めます。それを協議会へフィードバックし、最終的に可否判断を問う合併案を作成していくこととなります。なお、フィードバックを行ったからといって合併を承認したということでないことを申し添えます。

ご意見をいただくにあたり、全体骨子の理解の助けとなればと第一次合併協議案のダイジェスト版を作成しました。合併協議案に合わせて参照いただければと存じます。また、補足資料として、三学会の比較データをまとめました。

今後、会員公聴会や理事会での検討を進め、また、支部・研究委員会、法人企業、若手メンバーなどとの直接対話も計画して参ります。是非とも、忌憚のないご意見をいただけますと幸いです。なお、協議会よりの提案となりますが、繊維学会会長としては、これを擁護する立場ではなく、皆様と一緒に課題や改善案について意見交換させていただき所存です。協議会での議論を踏まえて補足説明はさせていただきます。その際、繊維学会の活動が如何に継続、発展させられるかという視点に加えて、次世代の学会としてどうあるべきかという視点も加えていただければと思っています。前回の合併協議では、現行学会の活動が新たなプラットフォームの中で如何に継続、担保されるかという観点からスタートしましたが、今回はステージを上げて、「合併した1学会としてどうあるべきか」という観点をも加味して検討いただきたいと思います。もとより、新学会の前身として、3学会をしっかりと位置付ける（各学会の歴史・伝統を紐解き、アーカイブ等に容易にアクセスできる体制とする）とともに、新学会としての一体感を早期に醸成していく方策が肝要と考えています。

何とぞご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

繊維学会会長  
辻井敬亘

## 新学会構想（ダイジェスト版）

### （１）現状と課題

繊維分野の将来構想は、学理の進展により豊かな生活の実現に寄与する必要性から、学会の存在意義、合併することの目的と目指す姿を具体性を持つものにするのが重要である。さらに産業、社会と環境、人の生活の変化を踏まえ、基礎から応用までが融合することによって社会に寄与できる研究の発展、国際的プレゼンスの向上、産学官の交流の促進、を強く進めることが喫緊の課題である。

### （２）学会名

日本語名：日本繊維学会

英語名：The Society of Fiber Science and Technology, Japan

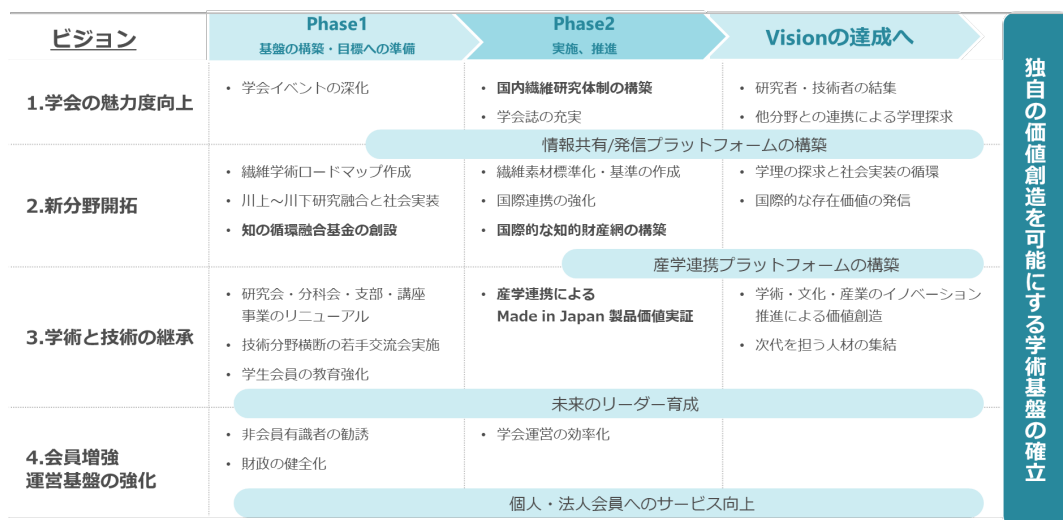
- 三学会の歴史と伝統を受け継ぐとともに、単なる和集合ではなく、三位一体となって大きな飛躍を目指す。ただし、手続き的には存続学会を繊維学会とする合併方式案を想定する。
- 和名に関しては、「日本」を冠するデメリットを指摘する意見もあり、多面的に検討した結果、「日本」を冠して、日本を代表する繊維関連学会であることを示すとともに、特に国内に向けては新学会の総力結集とブランディング戦略とする。

### （３）新学会のビジョン

繊維関係者の叡智を結集し、さらなる学理の探求と繊維を軸とした学術・文化・産業のイノベーション促進により、未来社会を見据えた価値創造を強力に推進

- 繊維関連の研究者・技術者が集結、叡智を結集し、学理を探求する。
- 学術・文化・産業のイノベーションにより価値創造、日本の繊維産業を支え牽引する。
- 世界に向けた価値提案など、会員が国際的に活動する場として存在価値を明確に発信する。
- 知の継承と繊維関連教育へのコミットにより、次の時代を担う人材を持続的に育成する。
- 学理探求と社会実装を循環させる仕組みとする。

#### 4つのミッションとアクションプランとロードマップ



※合併の相乗効果を活かせず取組、認知度向上に関する施策の検討あり

### （４）行事・催事

年次大会および秋季大会（仮称）：

- 純収入（参加費等）での運営を目標
- 各学会のセッションをまとめ、最近のトレンドも網羅した形で、大分類→小項目を検討

	年次大会	秋季大会（仮称）
位置付け	研究者・技術者が一堂に集結する主要行事（研究発表を中心）	年次大会にはない仕掛けや内容を行うことで、差別化を図る
開催時期	6月開催，3日間（木金土）	10月～11月開催，2日間（金土）
開催地	関東地区:タワーホール船堀 関西地区など他地区での開催も検討	地方での開催

### 夏季セミナー

時期や内容の検討は実行委員会が主導、運営委員会が支援する。

テキスタイルカレッジおよび講演会：企画委員会の中に、2つの分科会を置いて運営する。

【テキスタイルカレッジ】内容を定型化し毎年開催する

(1) 基礎講座 ①「2日で学ぶせんいと布づくり」 ②「天然繊維の糸づくり」 ③「化学繊維の糸づくり」 ④「不織布」	(3) 実践講座 ⑭「アパレル製品設計の基本」 ⑮「繊維製品の品質管理と品質保証」 ⑯「洗浄・洗濯・クリーニング」入門 ⑰「快適性」入門 ⑱「人工皮革・合成皮革入門」
(2) 応用講座 ⑤「染色加工（基礎）」 ⑥「編物」 ⑦「織物」 ⑧「組物」 ⑨「繊維製品の感覚性能」 ⑩「染色加工（理解に役立つ科学）」 ⑪「染色加工（実務と応用）」 ⑫「合成繊維（実用）」 ⑬「資材用繊維」	(4) 講習会 ⑲「実習：感性評価のための布特性」 ⑳消費性能試験法講習会 ※将来的に資格認定に繋ぐことを視野に

【講演会】ホットトピックスを扱う

(1) 講演会 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、「繊維×AI」「環境」「メディカル」「スポーツ」など</li> <li>ビジョン・ミッションに照らし、例えば「サステナビリティ」「ウェルビーイング」「技術継承」等の分野など</li> </ul>
(2) 講演会 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、見学付き講演会（産地や公設試）や国際見本市/展示の報告会など</li> </ul>

### (5) 各種事業

学会誌 スローガン：Your Gateway to All Things Fibers

- 新学会 Vision & Mission に連動し、繊維に関するあらゆる情報を提供する。
- 合併後の幅広い会員の興味に対応した記事を提供し、毎号で記事の偏りのない紙面を心がける。
- 繊維関連基幹情報誌として会員はもちろん、非繊維分野との交流を促すような学会誌を目指す。
- 環境対応や出版費用削減などの観点から冊子の廃止と完全電子化への移行は必要な方向性と考えられるが、課題も多く慎重に考える必要あり。新学会発足時は冊子郵送でスタートが妥当と考える。

### 論文誌

【提案】 Journal of Fiber Science and Technology (JFST) に一本化する

(英文・和文の扱い：現行の JFST (英文+和文) の形式を引き継ぐ)

【補足 (協議ポイント)】

以下の3案のメリット・デメリットを比較検討した。

(1) JFST に一本化し、当面は英文・和文を受け入れる体制とする。

(2) JFST（英文のみ）と和文・英文混載誌の2誌とする。

(3) JFST（英文のみ）と和文誌の2誌（前回合併協議時の案）とする。

## 表彰

新しい学会にふさわしい、これまで三学会が築き上げてきた伝統を受け継ぎ、幅広い繊維分野をけん引する賞を設ける。同時に、人材育成に資する、若手研究者や技術者に対する賞を設ける。

## (6) 研究会

【運営】 特定分野の研究活動の活性化と学会運営への貢献を目的に以下の観点を含めて検討した。

- (1) 運営補助金、(2) 参加メンバー及び研究会会費、(3) 活動計画・予算・報告、
- (4) 研究会役員・任期、(5) 会計処理（3つのタイプ）

【統廃合の方向性】 次の3つを提示する。

- ①研究会のリストアップと各研究会の名刺代わりの情報を整備する。
- ②その情報に基づき、研究会継続等の意向調査を事前に実施する。
  - ・類似研究会をリストアップし、それぞれの委員長に統合の検討の事前調査を依頼する。
- ③研究会の統廃合については新学会において会長主導の下で実施する。

【新研究会】 ビジョン等に沿って検討。例えば「サステナビリティ」「ウェルビーイング」「技術継承」分野など。

## (7) 運営

定款：現在の繊維学会の定款をベースに、今後の検討を踏まえて変更・追加する。

役員：迅速性・効率性が高く、ガバナンスの効いた学会運営を実現する役員体制とする。

➤ 理事：20名以上30名以内 監事：3名以内 役員任期：2年

➤ その他

- ・開かれた学会運営を目指して、会員参加型の役員選考を検討
- ・諮問委員（仮称）を検討

※キーパーソンによる学会支援・協力体制の強化、情報提供・情報共有を行う組織（応援団として、学会参画意識の醸成、心地よい関係性のある場づくりのための組織）。

重要観点：学会運営への関与はなし（運営は理事会主導）。定数は100名程度（主には企業関係者、アカデミア／公設試等関係者の参画、若手世代の関与などの可能性提案あり）。

ガバナンス：副会長5名それぞれに担当を設けて学会運営全般を掌握、会長をサポート。

## 支部

- ・会員がいずれかの支部に所属する体制（繊維学会区割りをベースに今後調整）
- ・本部との連携のもと、全国網羅的な会員サービスと活動基盤を強化する。

## 事務局

新学会の将来構想やビジョン・ミッションの実現、円滑な学会活動の推進、三学会が築き上げてきた貴重な財産やリソースの有効活用、財政面での実現可能性などを踏まえて検討。

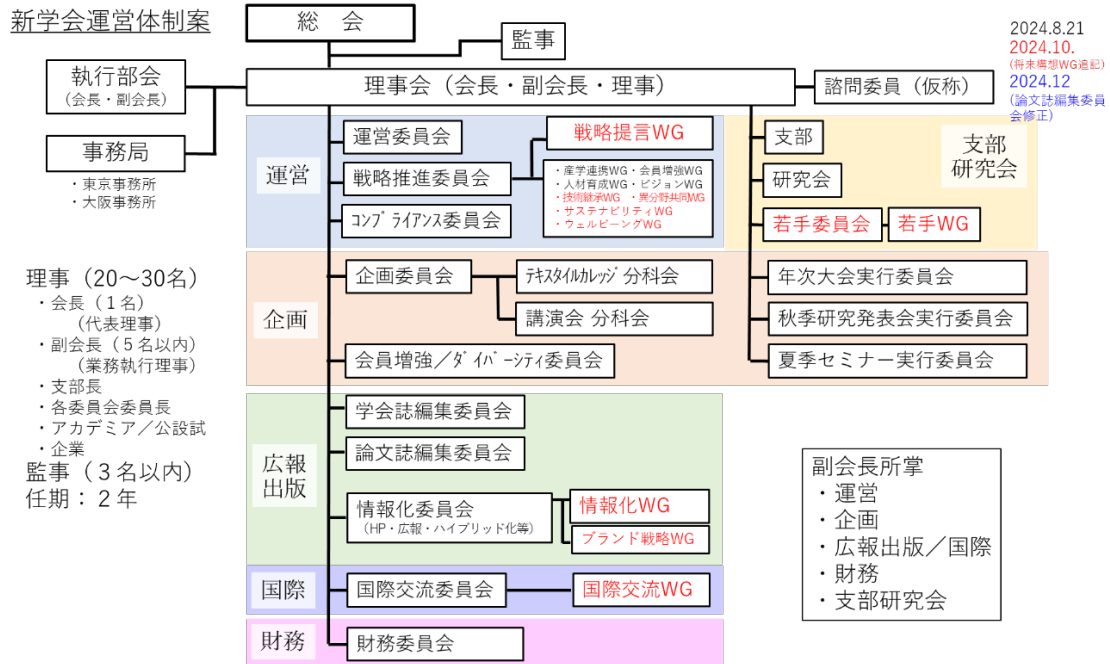
➤ 関東／関西二拠点体制

➤ 二拠点化のメリット：現有リソースの有効活用に加え、新学会として相互融合のチャンス、例えば、研究会同士の連携や新たな産学官の出会いの機会の増進に貢献する。

➤ 担当主務の設定：二拠点化の効率的運用のために、担当主務を設定するとともに（財務や会員

管理は主として関東拠点、催事活動の対応は主として関西拠点)、密接な情報共有を行う。

- **事務局業務の効率化**：オンラインツールやDXの導入を積極的に行い、実務を支えてきた大学関係者の負担軽減、肥大化する事務局業務の効率化を図る。
- **余力の捻出**：新しい取組への対応に備える。
- **点検・見直し**：事務局体制は、都度、点検・見直しを行い、複数拠点体制の有効性・実効性を含め、事務局体制が当初の想定通りに機能していない場合には、見直しを行う。
- **関西拠点**：日本繊維製品消費科学会所有マンションが候補に挙がっているが、継続検討。



## (8) 財務

【提案】 学会・企業側負担を含めた現状に鑑み、会費の在り方について下記を基本方針とする。

1. 会費は、正会員・学生会員・名誉会員・賛助会員の4種類とする。
2. 賛助会員は一口10万円とし、口数に合わせて自動的に広告掲載などの権利を付与する。
3. 正会員は1万円/年、学生会員は3000円/年、名誉会員は無料とする。

### 全体財務シミュレーション

	収入(千円)	支出(千円)	収支(千円)	総収入比率	備考
①会費	60,000		60,000	-	23年末3学会計と同額
②学会誌		8,200	-8,200	8.7%	広告収入は会費収入に抱合
③論文集		2,000	-2,000	2.1%	
④行事	9,000	9,000	0	-	年次大会
	3,000	3,000	0	-	夏季セミナー
	7,600	7,600	0	-	秋季大会
	8,000	3,200	4,800	-	テキストカレッジ+講演会
⑤研究会	B.6,900 C.2,800	B.3,900 C.1,000	B.3,000 C.1,800	-	本部支援を想定し、会費あり(B)、会費なし(C)の2パターンを想定
					WGでの収支計算結果待ち
⑥国際化					WGでの収支計算結果待ち
⑦人件費		30,000	-30,000	31.7%	5名体制+パートさん経費(1,000/年) 福利厚生、交通費、退職金積立込みを2023年実績を基に算出
⑧固定費		11,500	-11,500	12.2%	一般管理費、事務局管理、理事会開催、消費税、減価償却含む 各種委員会、研究活動は行事へ、 繊維機械事務局解約→現行繊維学会・消費科学会2事務局体制と仮定
年間総収支	94,500	78,400	16,100		研究会ケースBを採用した場合

## 補足資料

### 繊維系 3 学会の現状と比較

## 繊維系3学会の概要（比較版）

### 1. 基本情報

		繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
設立		1943年	1948年	1971年
事務局		東京都品川区上大崎 3-3-9-208	大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター6階	大阪市北区天満橋2-2-7-403 アルカディーナ天満橋リバーサイド
会員数 (2023年度)	正会員	993	616	556
	学生会員	274	48	66
	維持会員	12	15	18
	賛助会員	89	73	43
	名誉・永年会員	77	15	6
支部		北海道・東北支部 関東支部 東海支部 北陸支部 関西支部 西部支部	関東支部 信越支部 東海支部 北陸支部 中国支部	関東支部 東海支部 北陸支部 中四国支部

### 2. 行事

繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
年次大会 夏季セミナー 秋季研究発表会 繊維基礎講座 繊維応用講座 繊維技術講座 支部・研究委員会行事	年次大会 秋季セミナー 繊維工学研究討論会 テキスタイルカレッジ 講演会 研究会行事	年次大会 消費科学講座 消費性能試験法講習会 実践アパレル講座 支部・研究委員会行事

### 3. 年次大会セッション

繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
(1) 繊維・高分子材料の創製 (2) 繊維・高分子材料の機能 (3) 繊維・高分子の物理 (4) 成形・加工・紡糸 (5) 染色・機能加工・洗浄 (6) テキスタイルサイエンス (7) 天然繊維・生体高分子 (8) ソフトマテリアル (9) バイオ・メディカルマテリアル	研究発表セッション (a) テキスタイル・アパレルの科学と工学 (b) 繊維機械の科学と工学 (c) ナノファイバー (d) スマートテキスタイル (e) 環境対応技術 (f) 繊維強化複合材料 (g) 伝統的繊維製品および匠の技 (h) 染色・機能加工 (i) バーチャルテキスタイル (j) 産業用繊維資材および不織布  製品紹介セッション	(1) 材料・染織文化 (2) 染色加工・整理（洗浄・クリーニング） (3) 構成・衣服製造システム (4) 快適性・生理 (5) ファッションテック (6) ファッション・心理・色彩 (7) 流通・消費者問題 (8) サステナブルファッション (9) 技術レポート・製品開発紹介



#### 4. 出版(学会誌)

繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
<p><b>【論文誌】</b> Journal of Fiber Science and Technology 年間 12 号発刊、J-Stage でのオープンアクセス (PDF での公開)。英文・和文の混載。Journal Impact Factor=0.3</p> <p><b>【学会機関紙】</b> 繊維学会誌 年間 12 号発刊、発行部数 1650 部。冊子体の配布と、J-Stage での PDF 公開 (10 年間は会員のみ公開)。</p>	<p><b>【論文誌】</b> Journal of Textile Engineering 年間で 6 巻、2024 年 2 月より完全オンラインで発刊</p> <p><b>【学会誌】</b> 繊維機械学会誌「せんい」 年間で 12 巻 (毎月)、冊子体で発刊、J-Stage に PDF 版を掲載</p>	<p><b>【学会誌】</b> 「繊維製品消費科学」 解説記事と原著論文の混載 言語は日英混載 年間で 12 巻 (毎月)、冊子体で発刊 J-Stage に PDF 版を掲載</p>

#### 5. 研究会、研究委員会

繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
感性フォーラム 繊維基礎科学研究委員会 感覚と計測研究委員会 染色研究委員会 紙パルプ研究委員会 繊維加工研究委員会 被服科学研究委員会 先端繊維素材研究委員会 超臨界流体研究委員会 オプティックとエレクトロニクス有機材料研究委員会 若手研究委員会 医用材料研究委員会 地球に優しい繊維材料研究委員会 堅ろう度標準化研究委員会 スマートテキスタイル研究委員会 (3 学会共同運営)	繊維機械研究会 繊維リサイクル技術研究会 不織布研究会 ナノファイバー研究会 コンポジテックス研究会 テクテキスタイル研究会 スマートテキスタイル研究委員会 衣 coromo@未来研究会 バーチャルテキスタイル研究会 企業心理と消費者心理研究会 テキスタイル技術教育研究会 繊維未来塾 フェロー会	クリーニングに関する情報研究委員会 「快適性・健康」研究委員会 ファッション造形学研究委員会 スマートテキスタイル研究委員会 サステナブルファッション研究委員会 災害・安全研究委員会 オリンピック・パラリンピック研究委員会 「持続可能な社会における生活と商品」研究委員会 消費科学研究会

#### 6. 財務状況 (2023 年度)

	繊維学会	日本繊維機械学会	日本繊維製品消費科学会
収入	41,969,572 円	47,133,717 円	23,957,396 円
支出	47,519,768 円	46,119,224 円	25,348,339 円
収支差額	△5,549,769 円	1,014,492 円	△1,390,943 円
次年度繰越金 or 正味財産期末残高	81,416,261 円	31,682,984 円	63,410,450 円

## 繊維系3学会の比較（補足）

### ◆3学会の分野構成（2024年度年次大会発表件数を指標として）

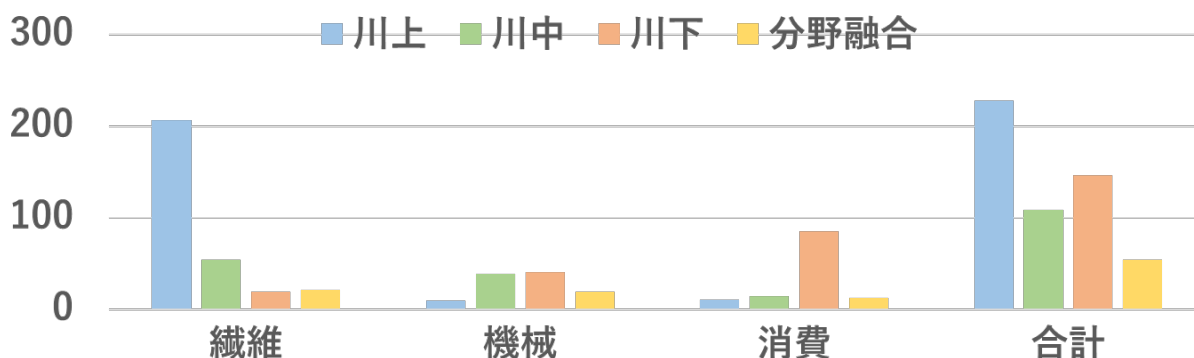
三学会の分野構成の目安として、各学会の年次大会の発表セッションを大まかに川上、川中、川下に分類し（複数領域にわたるセッションもあるが主要と思われるものを設定）、2024年度年次大会の発表件数を積算し（表1）、各分野の発表件数について、各学会毎ならびにその合計を図に示す。

同じ内容で別学会年次大会に発表していないとして、合計数を合併した場合の想定と見なすと、以下のことが予想される。

- ・ 繊維学会は川上、日本繊維機械学会は川中・川下、日本繊維製品消費科学会は川下に強く、合併するとバランスが良くなる。
- ・ 特に、繊維学会としては、弱かった川中・川下を強化できる。
- ・ 繊維学会ベースでは、分野のバランスが改善し、規模は約2倍になる。

表1 各学会の発表分野と発表件数（2024年年度年次大会）

	繊維	機械	消費
<b>川上</b>	207 (68%)*	10 (9%)	11 (9%)
	繊維・高分子材料の創製(31)、 繊維・高分子材料の機能(25)、 繊維・高分子材料の物理(63)、 天然繊維・生体高分子(45)、 ソフトマテリアル(43)	ナノファイバー(10)	材料・染織文化(11)
<b>川中</b>	55 (18%)	39 (35%)	15 (12%)
	成形・加工・紡糸(32)、 染色・機能加工・洗浄(23)	繊維機械の科学と工学(15)、 繊維強化複合材料(12)、 染色・機能加工(4)、 スマートテキスタイル(8)	染色加工・整理(15)
<b>川下</b>	20 (7%)	41 (37%)	86 (69%)
	テキスタイルサイエンス(20)	製品紹介(13)、テキスタイルとアパレルの科学と工業(14)、産業用繊維資材および不織布(5)、バーチャルテキスタイル(5)、伝統的繊維製品および匠の技(4)	構成・衣服製造システム(13)、快適性・生理(30)、ファッションテック(8)、ファッション・心理・色彩(11)、流通・消費者問題(5)、技術レポート・製品開発紹介(19)
<b>分野融合</b>	22 (7%)	20 (18%)	13 (10%)
	バイオ・メディカルマテリアル(22)	SDGs(15)、環境対応技術(5)	サステナブルファッション(13)
備考	口頭発表+ポスター発表	口頭発表のみ	口頭発表+ポスター発表



◆規模：三学会の財務状況の合計と第一次合併協議案の比較

	繊維	繊維機械	消費科学	合計	重複	協議案	備考（繊維学会比）	
（会員数）	正会員@24/9	927	575	574	2076	348	1728	1.9
	名誉・永年会員	70	15	6	91			
	維持会員	11	15	18	44	12	32	2.9
	賛助会員	83	74	51	208	65	143	1.7

※維持会員、賛助会員の重複数は、財務WG中間答申の数値を採用（維持44→32、賛助212→147の差）

	繊維	繊維機械	消費科学	合計		協議案	備考（繊維学会比）	
（事業規模）	収入予算ベース （千円）	41,969	46,275	23,764	112,008		94,500	2.3

	繊維	繊維機械	消費科学	合計		協議案	備考（繊維学会比）	
（年次大会発表） 分野別件数	川上	207	10	11	228		228	1.1
	川中	55	39	15	109			
	川下	20	41	86	147		147	7.4
	分野融合	22	20	13	55		55	2.5
	合計	304	110	125	539		539	1.8

**1. 繊維学会とは**

繊維学会は1943年12月に繊維工業学会と繊維素協会との合併によって創設され、80年の長きにわたり我が国の繊維科学および繊維産業の発展に貢献してきた。対象とする分野は、繊維の科学や技術を基礎としているが、既成の学問分野にとらわれることなく、広く学際領域にもおよんでいる。活動組織を以下に示す。

理事会：30名（2024年度 大学18名、企業11名、協会1名）、会長1名、副会長3名

事務局：東京都品川区上大崎3-3-9-208、2名

支部：北海道・東北支部、関東支部、東海支部、北陸支部、関西支部、西部支部

研究委員会：15研究委員会（詳細は後述）

**2. 会員数(2023年度)**

正会員	学生会員	維持会員	賛助会員
993名	274名	12社	89社

**3. 法人会員****【維持会員】**

旭化成株式会社

王子ホールディングス株式会社

倉敷紡績株式会社

株式会社クラレ

帝人株式会社

東レ株式会社

東洋紡株式会社

日本化学繊維協会

富士紡ホールディングス株式会社

三菱ケミカル株式会社

ユニチカ株式会社

**【賛助会員】**

(株)アシックス

飯田織工(株)

伊澤タオル株式会社

イチカワ(株)

大紀商事(株)

花王(株)

一般財団法人 カケンテストセンター

(株)カネカ

KANZACC(株)

(株)金陽社

岐セン(株)

岐阜県産業技術センター

クラレトレーディング(株)

(株)クレハ

KB セーレン(株)

一般財団法人 ケケン試験認証センター

興和株式会社

コーテック(株)

独立行政法人 国立印刷局研究所

小松マテール(株)

サイカイオーベックス(株)

SANDO TECH(株)

JNC ファイバークラス(株)

公益財団法人スガウエザリング技術振興財団

Spiber(株)

住江織物(株)

セーレン(株)

(株)ソトー

ダイキン工業(株)

(株)ダイセル

大日精化工業(株)

大和紡績(株)

竹本油脂(株)

津田駒工業(株)

帝国繊維(株)

(株)DJK

帝人フロンティア(株)

(株)デサント

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団

テルモ(株)

デンカ(株)

東海染工(株)

東京都立産業技術研究センター

東伸工業(株)

東ソー(株)

TOYO TIRE(株)

東洋紡(株)

東洋紡エムシー(株)

特種東海製紙(株)

所沢織物商工協同組合

(株)豊田自動織機

トヨタ紡織(株)

(株)ニチビ

日清紡テキスタイル(株)

日華化学(株)

日光ケミカルズ(株)

一般財団法人 ニッセンケン品質評価センター

日東紡績(株)

日本エクスラン工業(株)

一般財団法人 日本規格協会

日本蚕毛染色(株)

日本製紙(株)

一般社団法人 日本繊維技術士センター (JTCC)

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター (QTEC)

日本ノズル(株)

日本バイリーン(株)

日本フェルト(株)

藤森工業(株)

(株)ブリヂストン

フレックスジャパン(株)

一般財団法人 ボーケン品質評価機構

ポリプラスチックス(株)

松本油脂製薬(株)

丸善石油化学(株)

ミズノ(株)

三菱エンジニアリングプラスチックス(株)

三菱ケミカル(株)

三菱製紙(株)

三ツ星ベルト(株)

(株) ミマキエンジニアリング

(株) 村田製作所

明成化学工業(株)

(株)モンベル

ヤマシンフィルタ(株)

ユニ・チャーム(株)

横浜ゴム(株)

ライオン(株)

(株)レゾナック

#### 4. 年次大会のセッション

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| (1) 繊維・高分子材料の創製 | (6) テキスタイルサイエンス    |
| (2) 繊維・高分子材料の機能 | (7) 天然繊維・生体高分子     |
| (3) 繊維・高分子の物理   | (8) ソフトマテリアル       |
| (4) 成形・加工・紡糸    | (9) バイオ・メディカルマテリアル |
| (5) 染色・機能加工・洗浄  |                    |

#### 5. 財務状況(2023年度)

収入	支出	収支差額	正味財産期末残高
41,969,573 円	47,519,768 円	△5,549,769 円	81,416,261 円

#### 6. 出版

- ・論文誌： Journal of Fiber Science and Technology  
年間 12 号発刊、J-Stage でのオープンアクセス (PDF での公開)。英文・和文の混載。Journal Impact Factor = 0.3
- ・学会機関紙： 繊維学会誌  
年間 12 号発刊、発行部数 1650 部。冊子体の配布と、J-Stage での PDF 公開 (10 年間は会員のみ公開)。

#### 7. 特徴ある活動

##### 7.1 研究発表会・セミナー

- ① 3 大行事として年次大会、夏季セミナー、秋季研究発表会を開催し、研究発表および情報収集、相互交流の場を提供している。年次大会は東京で開催し、2023 年度は、発表 318 件 (口頭+ポスター)、参加登録 580 名であった。夏季セミナーは支部で持ち回り開催となっており、2023 年度は東海支部によって岐阜市で開催され、103 名が参加した。秋季研究発表会は関西で開催し、2023 年度は発表 280 件 (口頭+ポスター)、参加登録 457 名であった。また、秋季研究発表会では若手研究委員会による見学会および交流セッションが開催された他、高校生セッションを行い若手の交流活動にも力を入れている。
- ② 3 大行事の他に、繊維基礎講座、繊維応用講座、繊維技術講座を開催して教育・情報収集の場を提供している。
- ③ 各支部にて地域に密着した講演会・セミナーを開催している。

##### 7.2 研究委員会活動

以下の 15 の研究委員会にて、様々なテーマに関する深い議論と情報収集、相互交流を行っている。感性フォーラム、繊維基礎科学研究委員会、感覚と計測研究委員会、染色研究委員会、紙パルプ研究委員会、繊維加工研究委員会、被服科学研究委員会、先端繊維素材研究委員会、超臨界流体研究委員会、オプティックとエレクトロニクス有機材料研究委員会、若手研究委員会、医用材料研究委員会、地球に優しい繊維材料研究委員会、堅ろう度標準化研究委員会、スマートテキスタイル研究委員会 (3 学会共同運営)

**1. 日本繊維機械学会とは**

一般社団法人日本繊維機械学会は、繊維産業に携わる方々の結集体として昭和23年（1948年）に設立されて以降、

- ・繊維関連技術発展と人材育成のための研究発表会、講演会、講習会等の企画実施
- ・学会誌および論文集等の発刊をはじめとする繊維・繊維機械技術に関する学術の普及
- ・国際会議開催等による国際社会への技術発信と交流活動

を活発に展開し、繊維及び繊維機械に関する学術の進歩、かつこれらに関連する工業技術の発展に努め、テキスタイルの製造、糸づくり、織物、編物、不織布、染色仕上、縫製からあらゆる産業資材、ナノファイバー、スマートテキスタイルからデザイン、ファッションとそれに関連する機器・装置の、産学官協同を基調に様々な分野の活動を展開している。

**2. 会員数（2023年度）**

正会員	学生会員	賛助会員	維持会員	名誉会員
616名	48名	73口	15口	15名

**3. 法人会員**

(株) AIST Solutions	(株) 島精機製作所	東レ・ファインケミカル (株)
(株) アシックス	シンジーテック (株)	中尾フィルター工業 (株)
旭化成 (株)	住江織物 (株)	日華化学 (株)
芦森工業 (株)	セーレン (株)	日東商事 (株)
ウラセ (株)	スタイレム灌定大阪 (株)	日本セレン (株)
(公財) 石本記念デサントスポーツ科学振興財団	(株) たいへい	日本マイヤー (株)
エイコー測器 (株)	大和紡績 (株)	(一財) 日本繊維製品品質技術センター
(株) エスカコーポレーション	竹本油脂 (株)	日本紡績協会
岡本 (株)	帝人 (株)	日精 (株)
(株) 化繊ノズル製作所	帝人フロンティアニッティング	日本毛織 (株)
金井重要工業 (株)	(株)	日本化学繊維協会
(一財) カケンテストセンター	津田駒工業 (株)	日本バイリーン (株)
関発工業 (株)	(株) ツジトミ	日本繊維機械協会
カトーテック (株)	槌屋ティスコ (株)	日本フェルト (株)
川之江造機 (株)	帝人フロンティア (株)	日本繊維技術士センター
(株) カネカ	TMT 神津 (株)	(JTCC)
岐セン (株)	東京都立産業技術研究センター	日本不織布協会
岐阜県産業技術総合センター	TMT マシナリー (株)	バンドー化学 (株)
興和 (株)	東洋紡 (株)	(株) 日阪製作所
(株) 金陽社	栃木県産業技術センター	(株) 福原精機製作所
(株) クラレ	(株) トーア紡コーポレーション	(一財) ボーケン品質評価機構
倉敷紡績 (株)	ン	松文産業 (株)
KB ツヅキ (株)	東洋電機 (株)	村田機械 (株)
グンゼ (株)	東レ (株)	(株) 美濃製作所
KB セーレン (株)	東レコーテックス (株)	(株) ミマキエンジニアリング
三幸毛糸紡績 (株)	トクデン (株)	森田工業 (株)
SANDO TECH (株)	特許庁	(株) メディテックジャパン
シキボウ (株)	(株) 豊田自動織機	ユニチカトレーディング (株)

#### 4. 年次大会のセッション

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| (1) テキスタイル・アパレルの科学と工学 | (9) バーチャルテキスタイル                         |
| (2) 繊維機械の科学と工学        | (10) 産業用繊維資材および不織布                      |
| (3) ナノファイバー           | (11) 製品紹介セッション                          |
| (4) スマートテキスタイル        | (12) 学生セッション                            |
| (5) 環境対応技術            | (13) SDGs セッション                         |
| (6) 繊維強化複合材料          | (14) ポスターセッション(学術研究発表コーナー,<br>製品紹介コーナー) |
| (7) 伝統的繊維製品および匠の技     |   |
| (8) 染色・機能加工           |   |

#### 5. 財務状況(2023年度)

収入	支出	収支差額	次年度繰越金
47,133,717 円	46,119,224 円	1,014,493 円	31,682,984 円

#### 6. 出版

- ・論文誌 Journal of Textile Engineering : 年間で6巻, 2024年2月より完全オンラインで発刊
- ・学会誌 繊維機械学会誌「せんい」: 年間で12巻(毎月), 冊子体で発刊

#### 7. 特色ある主な活動

##### 7.1 秋季セミナー

産学官の繊維に関わる方々を対象に, 最新情報の収集ならびに意見交換の場となることを目的として開催。内容は, 特別講演, 学会賞「技術賞」受賞講演, テクニカルセッション, 繊維関連公設試による発表。

##### 7.2 テキスタイルカレッジ

繊維の基礎的な知識を体系的に学ぼうとする職業人や学生を対象に, 「入門」「専門講座」「実用講座」を設ける。

2023年度は, 15単元を開催。講師陣はのべ人数86名。聴講者はのべ人数264名。

##### 7.3 繊維工学研究討論会(Textile Research Symposium)

繊維工学研究討論や情報交流のため1972年創設されて年一回, 開催。1990年頃より発表言語を英語とし, 国際シンポジウムとなった。日本と海外で交互に開催するようになり, 2023年には第50回をモーリシャスで開催。

##### 7.4 研究会・講演会

講演会は年4回程度開催, 対面では大阪で開催。

研究会は11ある。対面の場合, 大阪での開催が多い。研究会メンバーは, のべ法人131社, 個人149名。

研究会の開催回数は, のべ26回開催。

##### 7.5 その他の特色ある活動

繊維・未来塾: 2012年設立。塾生は繊維系企業の経営者などで現在70名。これまで46回開催。会場は大阪市内。

フェロー会: 日本繊維機械学会フェローによって構成され, 社会貢献(小中学生テキスタイルセミナー, 出前授業, 技術相談など)の活動している。2020年現在で62名。

再生糸普及委員会: 再生糸の開発を通じ, 新しい糸文化の構築を目指し, 2023年に設立。講演会等の活動を展開。

## 【個別データ】

## 一般社団法人 日本繊維製品消費科学会

### 1. 日本繊維製品消費科学会とは

1950年（昭和25年）頃、新しい人造繊維の生産が活発になり、繊維製品の消費科学的研究が必要となった。そこで官・学・産の有志が集まり、昭和30年(1955)研究会を発足、昭和35年に学会として設立し、昭和46年(1971)社団法人として認可された。

繊維製品消費科学に関する学理、およびその応用の研究についての発表および連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、繊維製品消費科学に関する研究の進歩普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする（定款より）。

理事会：理事25名、監事2名

諮問委員：95名

事務局：大阪市北区天満橋2-2-7-403 アルカディーナ天満橋リバーサイド、3名

支部：関東支部・北陸支部・東海支部・中四国支部

### 2. 会員数(2023年度)

正会員	学生会員	維持会員	賛助会員	名誉会員
556名	66名	18社	43社	6名

### 3. 法人会員

#### 維持会員

花王株式会社	株式会社デサント	(一財) ニッセンケン品質評価センター
(一財) カケンテストセンター	東洋紡株式会社	(一財) ボーケン品質評価機構
カトーテック株式会社	東レ株式会社	ミズノ株式会社
株式会社クラレ	日本化学繊維協会	三菱ケミカル株式会社
帝人フロンティア株式会社	日本毛織株式会社	モリトアパレル株式会社
(一社) 繊維評価技術協議会	(一財) 日本繊維製品品質技術センター	ライオン株式会社 ファブリックケア研究所

#### 賛助会員

旭化成株式会社	株式会社三幸社	日本産業皮膚衛生協会
株式会社アシックススポーツ工学研究所	シキボウ株式会社	(一社) 日本繊維技術士センター
岡本株式会社	島田商事株式会社	日本ダム株式会社
菅公学生服株式会社	株式会社消費科学研究所	ピップ株式会社
協同組合 関西ファッション連合	全国クリーニング生活衛生同業組合連合会クリーニング総合研究所	福助株式会社
株式会社キタイ	第一化成株式会社	富士紡ホールディングス株式会社
岐阜県産業技術総合センター	大和紡績株式会社	株式会社HEAVEN Japan
倉敷紡績株式会社	タビオ奈良株式会社	松本油脂製薬株式会社
株式会社桑原	株式会社チクマ	マドラス株式会社
グンゼ株式会社 研究開発部	帝国繊維株式会社	マルコ株式会社
(一財) ケケン試験認証センター	公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団	ユニチカガーメンテック株式会社
株式会社コープクリーン	地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター	ユニチカトレーディング株式会社
株式会社ゴールドウイン	東レコーテックス株式会社	ユニ・チャーム株式会社
興和株式会社	株式会社ナイガイ 企画開発部 技術課	YKK株式会社
独立行政法人 国民生活センター	日清紡テキスタイル株式会社	株式会社ワコール



#### 4. 年次大会のセッション

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| (1) 材料・染織文化            | (6) ファッション・心理・色彩  |
| (2) 染色加工・整理（洗浄・クリーニング） | (7) 流通・消費者問題      |
| (3) 構成・衣服製造システム        | (8) サステナブルファッション  |
| (4) 快適性・生理             | (9) 技術レポート・製品開発紹介 |
| (5) ファッションテック          |                   |

#### 5. 財務状況(2023年度)

収入	支出	収支差額	正味財産期末残高
23,957,396 円	25,348,339 円	△1,390,943 円	63,410,450 円

#### 6. 出版

- (1) 学会誌の刊行（月刊として 12 回刊行）

論文掲載 新製品の紹介，企業活動や消費者動向の調査，安心・安全と消費者問題・環境への対応など繊維製品消費科学にまたがる多義の発表を毎月 1 回，年間 12 回の学会誌で発表している。

- (2) 学術図書の刊行について

学会誌での連載原稿を中心に，広く社会に向けて普及・啓蒙するために教育・啓蒙図書の発行を行なう。「快適性に関する Q&A」・「人工皮革・合成皮革」・「アパレルの品質苦情に学ぶ」・「苦情品診断学実践講座」

#### 7. 特徴ある活動

- (1) 年次大会 年 1 回

- (2) 研究委員会開催

- ・快適性・健康を考えるシンポジウム 年 2 回
- ・ファッション造形学セミナー 年 2 回
- ・クリーニングセミナー年 2 回
- ・サステナブルファッション研究委員会 勉強会 年 2 回

- (3) 企画委員会

- ・消費科学講座（東京・大阪） 年 4 回
- ・消費性能試験法講習会 年 1 回
- ・実践アパレル講座 年 2 回

- (4) 支部事業

- ・支部は，関東・北陸・東海・中国四国の 4 つの支部。
- ・各支部では，支部に所属する会員を始めて，支部地域の人たちに向けて繊維製品と消費科学に関わる研修会や見学会，研究発表会を支部独自に行なっている。